

ペテロ第二1章3-4節 「神のご性質にあずかる者」

1A 神のかたちに造られた人 3

1B 神の栄光と栄誉

2B 主イエスの御力

1C この方を知る人々

2C 命令に従った人々

3C もう一人の助け主

3B いのちと敬虔

1C 交わりのいのち

2C 神に似た者

2A 尊く大いなる約束

1B 御霊とみことばの約束

2B 世の汚れからの免れ

3B 神のご性質

本文

ペテロの第二の手紙 1 章を開いてください。私たちの聖書通読の学びは、前回、ペテロ第一をすべて読み終わりました。同じペテロによる第二の手紙を、今日から見ていきます。1 章を午後礼拝で一節ずつ見ていきますが、今朝は 3-4 節に注目したいと思います。「³私たちをご自身の栄光と栄誉によって召してくださった神を、私たちが知ったことにより、主イエスの、神としての御力は、いのちと敬虔をもたらすすべてのものを、私たちに与えました。⁴その栄光と栄誉を通して、尊く大いなる約束が私たちに与えられています。それは、その約束によってあなたがたが、欲望がもたらすこの世の腐敗を免れ、神のご性質にあずかる者となるためです。」

1A 神のかたちに造られた人 3

私はしばしば、キリスト教が天国教、あるいは地獄教に変質してしまっている危険性をお話します。天国教とは、自分が死んだ後に何か良い所に行くことができ、その保障を、イエス様を信じたから得ることができた、というものです。地獄教もまた、自分が恐ろしい、苦しみの地獄を避けたければ、イエスを信じなさいというものです。この考えの大きな間違いは、主のくださる永遠のいのち、あるいは永遠の滅びというのが、天国や地獄という「場所」だということです。

けれども、天国が、神が王座を占めているところであり、そこでは絶えず、昼も夜も、主を礼拝しているところだと知ったら、どれだけの人が天国に行きたいと願うでしょうか？「キリスト教は、イエスを信じなかつたら、地獄に行く教えるのか。なんと排他的で、ひどい宗教なのか？」と非難する

人がいます。けれども、「では、天国に行きたいのですか？」と尋ねます。もちろんだ、と言ったら、「そこでは、イエスが礼拝を受けるところです。絶えず、人々がイエスの前でひれ伏して、賛美と感謝を献げています。」と言います。そんなところだったら、行きたくないというのではないのでしょうか？黙示録を見れば、天においては神と主イエスが王座に着いておられて、絶えず私たちは礼拝を献げ、この方に仕えているのです。今、礼拝を好まなければ、この世の楽しみが良ければ、天国に行かないほうが幸せです。

イエス様は、ご自身が、天におられる父のところに戻られる時が近づいていることを弟子たちに話されました。しかし、天において、彼らの住む場所を用意しにいったら、また来て、あなたがたを迎えに行きますと言われました。そして、こう言われます。「ヨハ 14:3 わたしのいるところに、あなたがたもいるようにするためです。」主イエスがおられるということが、天の喜びであり、この方にあずかり、この方のすばらしさを自分のものにするこそが、永遠のいのちなのです。「ヨハ 17:3 永遠のいのちとは、唯一のまことの神であるあなたと、あなたが遣わされたイエス・キリストを知ることです。」と言われました。キリスト教は、神とキリストご自身の栄光にあずかることであり、この方の性質を受け継ぐ時に、それを救いと呼んでいるのです。ペテロは、ここ 1 章 3-4 節で、神とイエスを知り、この方のご性質にあずかることを、神はみこころとしておられることを書いています。

1B 神の栄光と栄誉

ペテロが初めに、神のことを「**私たちをご自身の栄光と栄誉によって召してくださった**」と語っています。「**栄誉**」と訳されているところは、「美德」のように訳することができます。神の栄光があり、この方にある善があります。その中に、私たちを招いてくださったということです。

ダビデが、詩篇でこう歌っています。「8:5-8 あなたは人を御使いよりわずかに欠けがあるものとしこれに栄光と誉れの冠をかぶらせてくださいました。あなたの御手のわざを人に治めさせ万物を彼の足の下に置かれました。羊も牛もすべてまた野の獣も 空の鳥海の魚海路を通うものも。」主が人を造られた時に、ご自分に似せて造られました。ご自身が、万物を造られ、そこに栄光と栄誉が現れています。そして、ご自分のかたちとして、人がそれらを治めるようにされました。

しかし、最初の人アダムが罪を犯したために、そのかたちが損なわれてしまっています。そのかたちを、取り戻したいと神は願われています。これこそが、神の救いです。ご自分の愛する者たちが、ご自分に似たものとなることです。「あなたがたは聖なる者とならなければならない。わたしが聖だからである。(レビ 11:45)」「ですから、あなたがたの天の父が完全であるように、完全でありなさい。(マタイ 5:47)」「エペ 5:1-2 ですから、愛されている子どもらしく、神に倣う者となりなさい。また、愛のうちに歩みなさい。キリストも私たちを愛して、私たちのために、ご自分を神へのささげ物、またいけにえとし、芳ばしい香りを献げてくださいました。」このように、神に倣う者、神に似た者となるように召されています。

2B 主イエスの御力

そして、栄光と栄誉に召してくださった「神を、私たちが知ったことにより、主イエスの、神としての御力は、いのちと敬虔をもたらすすべてのものを、私たちに与えました。」とあります。知るということの力を、私たちは、この第二の手紙で学びます。主を知るといことは、単なる頭の知識ではありません。人格的に知ることです。自分の深い部分で知ることです。

1C この方を知る人々

キリスト教と、他の宗教の違いは、他の宗教は、創始者が教えるけれども、教えるだけだということです。イスラム教のムハンマドも、仏教の仏陀も、教えますが、それに従うのは本人にかかっています。けれども、キリスト教は違います。イエスご自身が教えるだけでなく、ご自身が私たちと共におり、この方がその教えを守り行うようにしてくださるのです。それが、「主イエスの、神としての御力」です。

2C 命令に従った人々

したがって、この方へ会って、この方の言われていることに従う時に、その命令に従うことのできる力が与えられます。福音書には、その話で満ちています。例えば、安息日の会堂で、片手の萎えた人がいましたが、主が、「手を伸ばしなさい」と命じられました。彼が手を伸ばしたら、元どおりになっていました。(マルコ 3:5) 同じようにして、例えば、主が自分に罪を犯した者を赦しなさいと命じられたら、その命令に従おうとすれば、赦す力が与えられるのです。

3C もう一人の助け主

そして、天に昇られて神の右にイエス様は座しておられますが、もうひとりの助け主、御霊を遣わすことを約束されていました。主が地上におられた時の助けを、聖霊が信じる者にくださいます。「ヨハ 14:16-17 そしてわたしが父にお願いすると、父はもう一人の助け主をお与えくださり、その助け主がいつまでも、あなたがたとともにいるようにしてくださいます。この方は真理の御霊です。世はこの方を見ることも知ることもないので、受け入れることができません。あなたがたは、この方を知っています。この方はあなたがたとともにおられ、また、あなたがたのうちにおられるようになるのです。」

3B いのちと敬虔

そしてペテロは、「いのちと敬虔をもたらすすべてのもの」と言っています。

1C 交わりのいのち

イエスがよみがえられ、私たちのうちに住まわれることによって、まず「いのち」が与えられています。「Iヨハ 5:12 御子を持つ者はいのちを持っており、神の御子を持たない者はいのちを持っていません。」いのちというのは、このようにして「つながる」ことによって、得るものです。胎児が、母

親のへその緒につながれていのちを得ているように、御子ご自身につながっていることによって、私たちはいのちを得ているのです。

2C 神に似た者

そこで、「敬虔」とあります。いのちに続いて、敬虔があることが大事です。私たちは敬虔を考える時に、何か自分たちがしなければいけない規則を守ることによって成り立っていると考えます。私たちは今、読書会で、チャック・スミスによる「恵みはなぜすべてを変えるのか」を読んでいます。そこに、服に金で輝くものを付けるのは罪深いと考えるキリスト教の人々がいることが書かれています。けれども、敬虔とは、自分が何かをしているか、していないかで成り立っているのではなく、主ご自身につながっているか、そうでないかで、流れるように神を恐れかしこむことで与えられているものです。

主ご自身につながっているということは、罪深き、弱き自分に、完全な、強いキリストがおられるということです。このつながりようがない二者をくっつけているのは、恵みです。神がキリストによって行われたこと、この方が、私たちの罪に対する神の御怒りを代わりに受けてくださったということによって、私たちがただキリストを信じているというだけで、義とみなされているのです。キリストが流された血によって、私たちのすべての罪が洗い清められています。この恵みによって、私たちのうちに、キリストがつながってくださっています。私たちが、これをしているから、あるいは、これをしていないからということで、敬虔を定めるのではなく、いのち、つまりキリストが私たちの内におられるということで、この方に聞き従うことによって敬虔を得ます。

2A 尊く大いなる約束

そしてペテロは、「その栄光と栄誉を通して、尊く大いなる約束が私たちに与えられています。」と言っています。尊く大いなる約束です。ある牧師さんが、誰かが聖書にどれだけ約束があるのかを調べて、7474の約束があるとのことでした！どうやって計算したかは分かりませんが、私たちは、神の約束に出会ったら、それをどうか、一つ一つを自分に対して神が下さっているのだとして、受け止めていってください。デポジションをしていたら、みなさんもよくわかるでしょう。与えられた約束を、自分のものとするのです。

1B 御霊とみことばの約束

主の約束は、もちろん、その語られたことばによって成り立っています。そのことばによって、私たちは神のご性質にあずかっていきます。「ヨハ 15:3 あなたがたは、わたしがあなたがたに話したことばによって、すでにきよいのです。」すごいですね、主の語られることばによって、すでにきよくされています。それから、父なる神に主は祈られました。「17:17 真理によって彼らを聖別してください。あなたのみことばは真理です。」みことばの真理が、イエスの弟子たちを聖別する、つまり汚れから別たれて、神のものとなるということです。「詩篇 119:9 どのようにして若い人は自分の

道を清く保つことができるでしょうか。あなたのみことばのとおりに道を守ることです。」みことばが、若者を清く保ちます。そしてイエス様は、種蒔きの喩えで、みことばを心で受け入れて、それをしっかりと保つことによって、三十倍、六十倍、百倍の実を結ぶことを約束されていました。

しかし、これらみことばは、神の御霊と共に私たちのものになっていることを忘れないでください。聖書は神の息吹によって書かれていると、パウロは第二テモテ 3 章 16 節で言っていましたね。神の御霊によって語られているので、私たちが御霊によって、みことばが与えられるのです。イエス様が言われました、「ヨハ 14:26 しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。」主の語られたことを教えるのも、御霊がしてくださいます。また、語られたことを思い起こすのも、御霊がしてくださいます。

教会の歴史で、教理問答というものがこれまで使われてきました。洗礼を受ける人々が入門教育として、キリスト教の教理を要約し、解説しているものです。問答形式をとるので、教理問答と言います。そこには、神の恩寵、つまり恵みについての教えもあります。けれども、自分が神の恵みを知っているのかわからず、数々のおきてに従っていかないといけないという思いがずっとありました。けれども、そのまま聖書のことばを聞いて、初めてイエスが自分を愛しておられるということを知ったという証言は、いくつか聞いて来ました。

教理問答を学ぶのが、意味がないということではありません。私たちの教会も、「新しい信者の学び」といって、バプテスマを受ける前後の人々を中心に、学び会をしています。意味はあるのです。けれども、みことばが聖霊によって自分に語られ、思い起こされない限り、自分の確信には至らないということです。力にはならないということです。神の語られることばは、天地を造られるほど力強いものですが、内に住まわれる御霊によって、初めてその力が自分のものになるのです。

2B 世の汚れからの免れ

そしてペテロは、「それは、その約束によってあなたがたが、欲望がもたらすこの世の腐敗を免れ、」と言いました。ここの「この世の腐敗」は、同じ第二の手紙で「肉欲や好色の奴隷状態」であることを教えています(2:18-19 参照)。第一の手紙でも、ペテロは、「4:3 あなたがたは異邦人たちがしたいと思っていることを行い、好色、欲望、泥酔、遊興、宴会騒ぎ、律法に反する偶像礼拝などにふけりましたが、それは過ぎ去った時で十分です。」と言っていました。これらのものは滅んでいきます。自分のたましいに、肉の欲は戦いを挑んできます。けれども、神の尊い大いなる約束によって、これらの汚れから免れることができます。

3B 神のご性質

そして最後に、「**神のご性質にあずかる者となるためです。**」とあるのです。神が、ご自分の栄光と栄誉によって造られた人間が、世の汚れの中で滅びへと向かっている中で、キリストの血によって救っていただきました。みことばの約束によって、御霊の力によって、私たちは神のご性質にあずかっているのです。そして主が来られる時には、この卑しいからだも変えられて、栄光と栄誉にあずかることになります。

これが神の救いです。自分が何も変えられることがなく、行き先だけが変わることを教えるのは、もはやキリスト教ではありません。自分自身が変えられ、神の栄光を輝かすようになるのが、真のキリスト教です。最後に、御霊の尊い働き、神の栄光へと近づけてくださる働きを読みます。「**Ⅱコリ 3:18 私たちはみな、覆いを取り除かれた顔に、鏡のように主の栄光を映しつつ、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられていきます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。**」